

# 設楽発掘通信

No.14  
平成27年  
10月号

## 滝瀬遺跡の地元説明会を

開催します。

暑い夏も過ぎ、ずいぶんと秋らしくなりましたが、八月末から開始した八橋地区にある滝瀬遺跡の発掘調査も順調に進んでいます。遺跡ではこれまでに縄文時代の土器や石器が多数出土し、遺跡のようすも少しずつ明らかになっています。

つきましては、十一月七日(土)午前十一時より、これらの貴重な成果を設楽町民の方々に見学して頂くための地元説明会を開催します。

説明会の頃には秋も深まり、川面の木々も色づいていることと思います。お誘い合わせの上、ぜひ遺跡にお出かけ下さい。

(愛知県埋蔵文化財センター

早野浩二)



写真1 滝瀬遺跡(右)と出土遺物(左上:スクレイパー、左下:打製石斧)

## 滝瀬遺跡地元説明会 会場のご案内

11月7日(土)午前11時より、発掘現場で開催予定です。

お車でご来跡の方は、現地に駐車場を用意しております。当日、係りの者をご案内いたします。

\*開催の詳細・お問い合わせは、愛知県埋蔵文化財センター調査課(電話 0567-67-4163)、樋上携帯(080-1571-4983)、あるいはホームページ(<http://www.maibun.com>)をご覧ください。



写真2 滝瀬遺跡 作業風景

\*現場内には凹凸があります。足下には十分にご注意下さい。

## 笹平遺跡の発掘調査

笹平遺跡では、十月頭に調査区北側の15B区と、南側の15C区の一部をラジコンヘリを使って空中写真撮影を行いました。時間や天候との戦いが常の発掘調査ですが、作業員さんたちの頑張りのおかげで、無事撮影に踏み切ることができました。現在は、撮影前には調査を行えなかった部分の補足調査を進めつつ、15C区の残り部分の調査を行っている最中です。

15B区では、北西部を中心に二十を超える竪穴建物跡あるいはその可能性のある竪穴状遺構が見つかっています。これまでに周囲から出土した遺物から、いずれも縄文時代後期（約四千年前）に属すると考えられます。平面形は、円形・楕円形を呈し、多くが少しずつ重なった形で見つかりました（写真3）。このような状況は、それらすべてが同時に存在していたのではなく、複数の時期にまたがって笹平遺跡の集落を形成していたことを物語っています。まずは見つかった竪穴状遺構のすべてが建物跡なのか、建物跡だったとして、それらが同じ人々が建て替えを繰り返しながら継続して利用していたものなのか、あるいは断絶する時期があつて異なる時期に別の人々が同じ場所を利用した跡なのかなど、まだまだ解き明かさなければならぬ課題がたくさんあります。

いくつかの建物跡では、埋めている土をていねいに除去した結果、壁に沿うように円形に巡る穴が見つかりました（写真4）。これらの穴は、柱を立てていた穴と考えられますが、建物の構造を考える上でも重要な成果と言えるでしょう。このような柱穴が見つかるか、あるいは炉跡が見つかるかといったことが建物であるかどうかを判断する手がかりとなってきます。伴う建物跡についてはまだ検討段階ではありますが、石を方形に組み上げて使用した石囲炉という形態の炉跡もいくつか見つかりました（写真5）。

また、今回見つかったている竪穴建物跡および竪穴状遺構の多くが直径四〜六mの規模であるなか、楕円形ながら長軸で10mを超えるような大型の竪穴状遺構も見つかっています（写真6）。これが建物跡なのか、複数の遺構が重なったものなのかが今後の調査の焦点になってきます。

（株式会社二友組 鷺坂有吾）



写真3 15 A・B b・B c 区全景（上が北西）



写真5 石囲炉（南から）



写真4 柱穴の見つかった竪穴建物跡（北東から）



写真6 大型竪穴状遺構（南東から）

## 川向東貝津遺跡の発掘調査

川向東貝津遺跡では、二〇二〇年度を含めて、四基の埋嚢が出土しています。今回紹介する埋嚢は、調査区西部中央付近にある竪穴建物跡の床面で見つかりました。上には四角い平らな石が置かれており（写真7の○部分の石）、土器の時期は縄文時代中期後半（およそ四千七百年前）と考えられます。口縁部には突帯と縄文で装飾が施され、胴部には文様等は見られません。底部は欠けており、意図的に割られたものと考えられます（写真8）。

埋嚢には、用途や性格に関しては様々な説があります。死産児や早逝した幼児、または胎盤などを入れて、女性が埋嚢をまたぐことで幼児の復活を願うという説や、生まれた子の胎盤を戸口に埋めるなどしてそれを踏むことで幼児が健康に育つとする説などです。これらの説は、日本及び周辺地域で伝わる風習を参考にしており、こうした風習のルーツを縄文時代の埋嚢に求める研究者もいます。

この埋嚢が出土した竪穴建物跡（写真7）は残存状態がよく、設案発掘通信No.11号で説明したようにこの石囲炉も非常によい状態で見つかりました。大きな板石を四方に組んだ形もよく分かり、炉の底の部分は被熱して赤くなっている様子が観察できました。建物の四隅には柱穴も検出され、屋根を支える柱が立てられていたようです。また用途は不明ですが、床面の各所に平らな石がいくつか置かれています。前述の埋嚢はこうした石の下から見つかりました。埋嚢が南側中央付近に位置し、石囲炉が中央よりやや北側に寄っていることから、建物の出入り口の位置は南側にあった可能性が高いでしょう。

この竪穴建物跡の時期は、今回の埋嚢でようやく縄文時代中期と確定できました。なかなか時期が確定できなかったのには二つの理由があります。一つは明確に時期の分かる遺物が出土していなかったこと、もう一つは前述した石囲炉が縄文時代中期によく見られるのに対して建物に重なって出土した埋嚢が縄文時代後期に属していたからです（設案発掘通信No.11・12号参照）。

このように異なる時期のものが重なって見つかったことで分かったことがあります。この縄文時代後期の埋嚢は中期の建物の床面より約四〇センチ高い位置で見つかりました。これは二時期の地表面の高さに大きな差があったことを

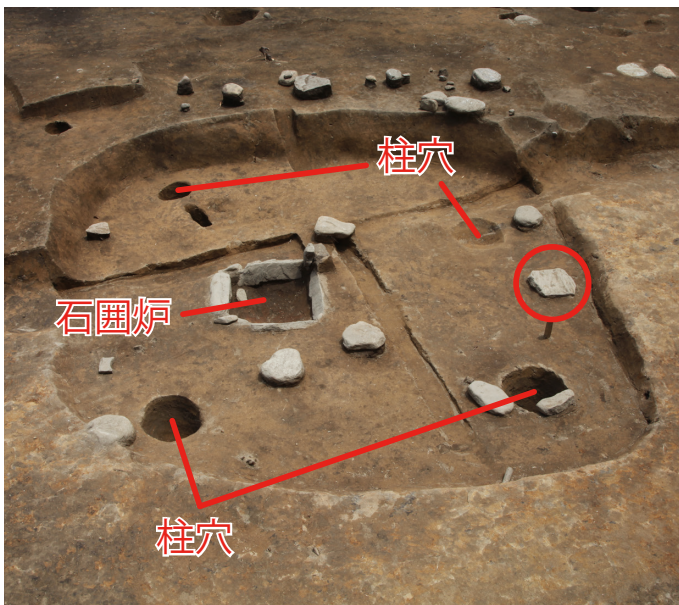


写真7 竪穴建物全景（左が北）



写真8 埋嚢断面

意味します。縄文時代中期の遺跡が何らかの理由で一度埋まった後に、後期の遺跡が形成されたことがわかります。

今回埋嚢が出土したことは、大変重要な意味がありました。それは、埋嚢自体の価値という点だけでなく、周辺の遺構の時期や性格、さらには遺跡全体の成り立ちを考える上でも重要な資料といえます。発掘調査では、このように一つの発見から多くの事実が見えてくるといことがあります。こうしたことも、発掘調査のおもしろみと言えるのではないのでしょうか。

（株式会社二友組 岩瀬大輔）

## 大栗遺跡・滝瀬遺跡の発掘調査

大栗遺跡は、九月の中旬で調査が完了しました。約九五〇〇年前の縄文土器や、約二五〇〇年前の石鏃など、その当時の時代が分かる遺物も出土し、調査成果を上げることができました。ただ、笹平遺跡・川向東貝津遺跡と比べると遺構、遺物量ともに想定していたよりも少なく、みなさんに目を輝かせて読んでもらえたかが気になる点です。今月号で大栗遺跡の発掘調査報告は最後になります。今後は滝瀬遺跡の発掘調査の報告をしていきます。

滝瀬遺跡は、豊川支流境川の右岸に立地している万瀬遺跡よりさらに上流の河岸段丘に立地しています。

大栗遺跡の調査が終わったと同時に、滝瀬遺跡の発掘調査を開始しました。滝瀬遺跡では、表土掘削の段階から遺物が多数出土しており、みなさんの興味を引ける成果を上げられるのではないかと期待しています。

写真9は、縄文時代中期後半（約五〇〇〇年前）の土器です。写真10は、縄文時代後期（約四五〇〇年前）の土器で、厚くした口縁に文様が施したものです。写真11も、縄文時代後期（約四五〇〇年前）の土器です。口縁に穴を開け、模様をつけています。写真12は石鏃で、打欠石鏃、切目石鏃、有溝石鏃の三種の分類のうち、今回出土したのは切目石鏃です。滝瀬遺跡は、すぐそばに旧伊那街道、境川と長江川の合流地があり、漁業を行っていた可能性が十



写真9 縄文土器（中期）



写真10 縄文土器（後期）



写真11 縄文土器（後期）



写真12 切目石鏃

分考えられる出土遺物です。

最後になりましたが、前頁でお知らせしたとおり、十一月七日に地元説明会を行ないます。たくさんの方に来ていただくことを楽しみにしています。

（株式会社二友組 杉山敬亮）

## 設楽発掘通信

No.14

平成27年10月号

編集・発行

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方8022の24

電話 (0567) 67-4161【管理課】 4163【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter [https://twitter.com/aichi\\_maibun](https://twitter.com/aichi_maibun)



印刷・協力

株式会社二友組